

2024年度日本環境化学会 功績賞学術賞受賞講演

7/2



9:30~11:30

JMSアステールプラザ(広島)



「極微量有機ハロゲン化合物の環境分析化学研究で得た種々の知見と苦労話およびメッセージ」

第33回環境化学功績賞 高菅 卓三氏(株式会社 島津テクノロジー)

受賞業績: 極微量有機ハロゲン化合物の環境分析化学研究と産学官研究連携の推進および学会活動における多大な貢献

講演概要: ダイオキシン類やPCB、POPsなど極微量有機ハロゲン化合物の環境分析化学的開発や研究を進めてきた過程では、産学官の連携をはじめ国内外の多くの研究者とのネットワーク構築ができた。これらの過程で得た知見の中でトピック的なものを苦労話も含めて紹介し、さらに日本環境化学会の年会(環境化学討論会)発表の解析なども紹介し、今後の学会の活性化と若手に向けたメッセージを送りたい。

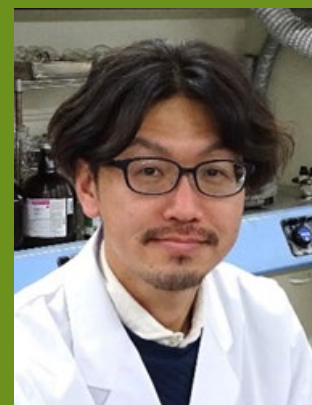


「機能性有機フッ素化合物の分解・無害化、再資源化反応の開発」

第33回環境化学学術賞 堀 久男氏(神奈川大学 理学部)

受賞業績: 有機フッ素化合物の分解・無害化および再資源化方法の開発における貢献

講演概要: 有機フッ素化合物は耐熱性や耐薬品性等の特異な性質を持つため多くの産業で使われてきた。しかしその安定性ゆえに廃棄物の分解処理が難しい。周知の通り一部の化合物については有害性が明らかとなり、製造や使用等に関する規制が高分子物質まで含めて検討されつつある。このため廃棄物を適切に処理することが必須となっている。また、これらの原料である萤石の産出は偏在しているため、再資源化することも求められている。そこで本講演では演者がこれまで開発してきた分解・無害化、および再資源化方法について、最近の結果も含めて紹介したい。



「機器分析とフィールド調査を基軸に微量有機汚染物質の存在実態を探る: 周囲に支えられた研究半生」

第33回環境化学学術賞 堀井 勇一氏(埼玉県環境科学国際センター)

受賞業績: 微量有機汚染物質の分析法開発や国内外フィールドにおける環境評価など多数の優れた研究業績

講演概要: 演者は機器分析とフィールド調査を基軸とした微量有機汚染物質の環境動態・影響評価に関する研究を、周囲の研究者に助け支えられ実施してきた。これまで取り組んできた安定同位体を用いる有機汚染物質の起源推定(ダイオキシン類の天然生成)、新興化学物質の分析法開発、国際標準化、存在実態解明、影響評価等に関する研究(例えば揮発性メチルシロキサンを)、共同研究者との関りに触れつつ、幸運な研究半生を紹介する。